

学習塾講師のコンピテンシーディクショナリ

～ 学習塾講師が求められる基礎的な行動基準の習得・確認のために ～

平成 21 年 4 月

社団法人全国学習塾協会

1. 学習塾講師のコンピテンシーディクショナリとは

『学習塾講師のコンピテンシーディクショナリ』は、学習塾講師に共通して求められる基礎的な知識や技術、能力を具体的に記述したものです。コンピテンシーディクショナリは、これから学習塾講師を目指す方や新任講師の自学自習を促すことを目的として作成していますが、中堅・ベテランの講師も、自らの基礎力を再確認し、能力開発に役立てられるような構成になっています。

スキルディクショナリでは、学習塾講師が授業を行う際に実施すべき行動を「①授業の流れ」、「②各段階で望まれる行動」を軸に分類して整理しています。あなたの得意・不得意分野を明確にして、不得意分野は克服して基礎力を身につけるとともに、得意な分野はさらに磨きをかけることによって、あなた自身が理想とする優れた学習塾講師を目指してください。

なお、コンピテンシーディクショナリの内容が実際の授業ではどのように表現されるのかを例示するために、『学習塾講師自習用DVD』では、スキルディクショナリの内容を映像で解説しています。併せて活用すれば、実際の授業イメージも理解できます。

コンピテンシーディクショナリに記載されている「求められる行動基準」は、学習塾講師の検定試験である「集団指導2級」「集団指導1級」の評価項目に使われています。

コンピテンシーディクショナリを用いて自己啓発・能力開発をすることは、塾講師としての基礎力を身につけることのみならず、検定試験の合格にも繋がります。

ぜひ、塾講師としての基礎力をしっかりと身につけ、検定試験の合格を目指して、頑張ってください！

2. コンピテンシーディクショナリの全体像・構成

- ・ 学習塾の授業は基本的に「導入→展開→まとめ」の構成となっています。学習塾講師は、授業の流れに応じた適切な行動を取る必要があります。
- ・ 学習塾講師が授業をする際には、「塾生に学習を動機付け」「塾生に授業に集中させる」とともに、「塾生に学習内容を理解させる」ための行動を取る必要があります。それぞれ必要となる行動は異なりますし、必要となるタイミングも異なります。

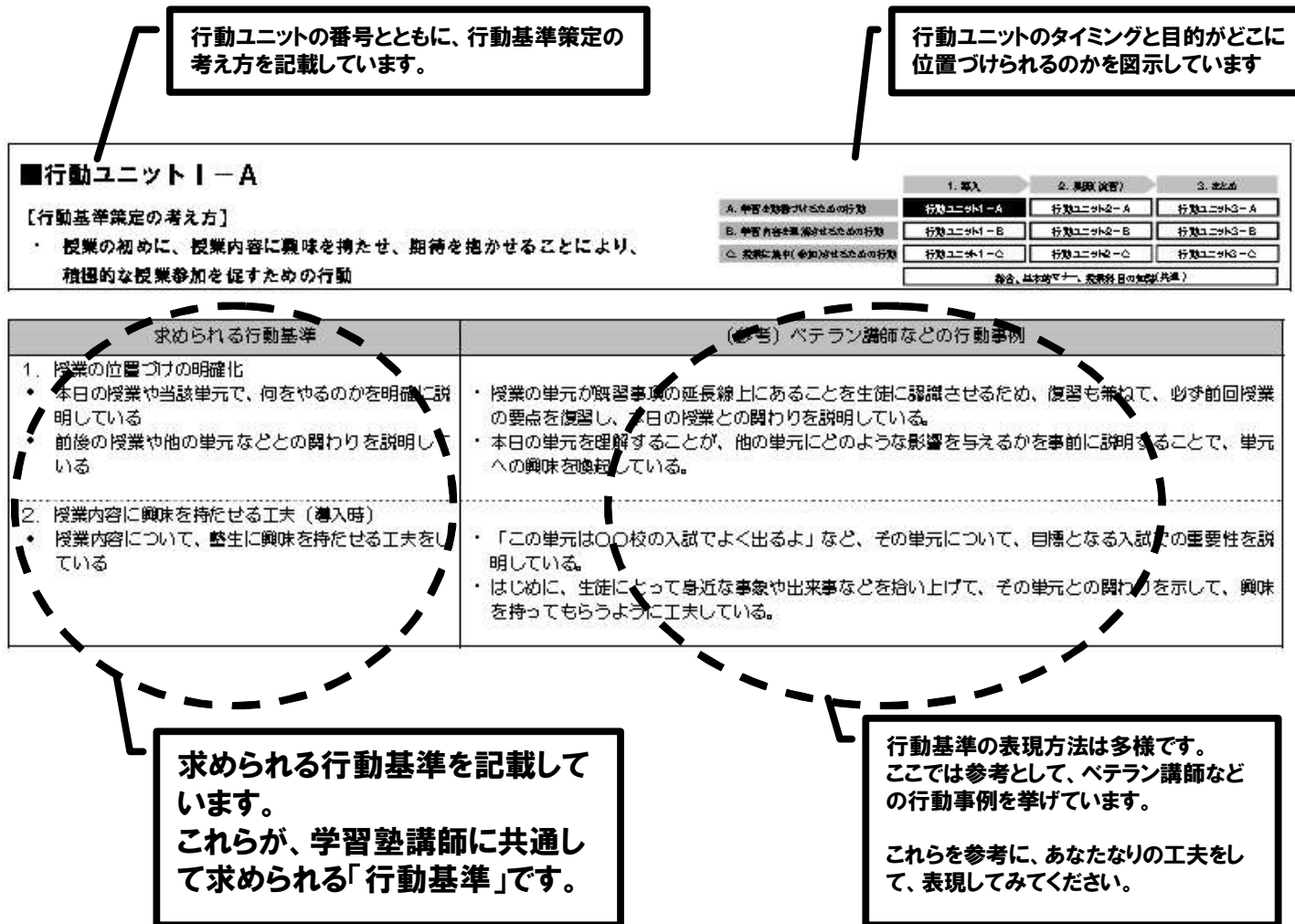


3. コンピテンシーディクショナリの項目一覧

	I. 導入	II. 展開(演習)	III. まとめ
A 学習を動機づけるための行動	<p>1. 授業の位置づけの明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該単元や本日の授業で、何をやるのかを明確に説明している 前後の授業や他の単元などとの関わりを説明している <p>2. 授業内容に興味を持たせる工夫(導入時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容について、塾生に興味を持たせる工夫をしている 	<p>1. 授業内容に興味を持たせる工夫(展開時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、授業内容について、塾生に興味を持たせる工夫をしている <p>2. 授業中の激励など</p> <ul style="list-style-type: none"> 塾生の反応をみて、励ましの言葉ややる気を喚起させる言葉をかけている 	<p>1. 授業の位置づけの再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日の授業や当該単元では何をしたのかを説明している 前後の授業や他の単元との関わりを説明している <p>2. 授業内容に興味を持たせる工夫(まとめ時)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本日の授業内容について、塾生の復習や次の予習を促す工夫をしている
B 学習内容を理解させるための行動	<p>1. 導入時の説明・発問のタイミング</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初の説明や発問のタイミングが適切であり、円滑な授業の展開を導いている <p>2. 導入時の説明・発問の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初の説明や発問は、適切な題材を用いて、塾生にわかりやすく問いかけている 	<p>1. 適切な説明・発問・例示</p> <ul style="list-style-type: none"> 例示や発問の回数・タイミングが適切である 塾生の理解の定着を図るために、工夫された説明・発問・例示がある <p>2. 塾生の理解確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 塾生の理解度をチェックするための発問をしている 塾生の表情や応答などから理解度を解釈し、確認している <p>3. 説明・発問・確認・対応の流れ</p> <ul style="list-style-type: none"> 塾生の理解を促すための発問・確認・対応の流れが適切である 特に授業の要点などが明確にわかるように説明している <p>4. 塾生の応答に対する対応</p> <ul style="list-style-type: none"> 塾生の応答に対するリアクションが適切である 塾生に確認したことを活かした説明ができています 	<p>1. 塾生の理解確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 塾生の理解度をなんらかの方法で最終確認している <p>2. 要点の明示</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業の要点などが明確にわかるように再度説明している
C 授業に集中(参加)させるための行動	<p>1. 導入時の話し方</p> <ul style="list-style-type: none"> 惹きつけられるような話のリズムであり、強弱・緩急がある 声の大きさが適切で、明るく、聞き取りやすい <p>2. 導入時の態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 立居やふるまいが適切である 表情が豊かであり、視線が教室全体に行き渡っている <p>3. 導入時の授業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の塾生の行動に流されず、教室全体を把握した授業を開始している 	<p>1. 展開時の話し方</p> <ul style="list-style-type: none"> 聞いていて苦にならない話のリズムである 声の大きさが適切で、間、明るさがある、聞き取りやすい 要点の説明などが明確にわかるよう、話の強弱やスピードをコントロールしている <p>2. 展開時の態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 立居やふるまいが適切である 表情が豊かであり、視線が教室全体に行き渡っている。 <p>3. 板書による説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字が塾生からよく見えて、目的に応じた板書をしている 長い時間、塾生に背を向けた板書をしていない 板書が授業の流れを妨げない <p>4. 講師の意欲・情熱</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師の意欲や情熱・使命感が伝わってくる <p>5. 展開時の授業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の塾生の行動に流されず、教室全体を把握した授業をしている 常に授業に塾生の注意を向けさせる工夫をしている 	<p>1. まとめ時の話し方</p> <ul style="list-style-type: none"> 惹きつけられるような話のリズムであり、強弱・緩急がある 声の大きさが適切で、明るく、聞き取りやすい <p>2. まとめ時の態度</p> <ul style="list-style-type: none"> 立居やふるまいが適切である 表情が豊かであり、視線が教室全体に行き渡っている <p>3. まとめ時の授業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の塾生の行動に流されず、余裕を持って、教室全体を把握したまとめをしている

4. コンピテンシーディクショナリ各ユニットの詳細

コンピテンシーディクショナリの各ユニットは、以下のような構成になっています。



1. 導入

■行動ユニット1-A

【行動基準策定の考え方】

- ・ 授業の初めに、授業内容に興味を持たせ、期待を抱かせることにより、積極的な授業参加を促すための行動

	1. 導入	2. 展開(演習)	3. まとめ
A. 学習を動機づけるための行動	行動ユニット1-A	行動ユニット2-A	行動ユニット3-A
B. 学習内容を理解させるための行動	行動ユニット1-B	行動ユニット2-B	行動ユニット3-B
C. 授業に集中(参加)させるための行動	行動ユニット1-C	行動ユニット2-C	行動ユニット3-C
総合、基本的マナー、授業科目の知識(共通)			

求められる行動基準	(参考) ベテラン講師などの行動事例
1. 授業の位置づけの明確化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 当該単元や本日の授業で、何をやるのかを明確に説明している ・ 前後の授業や他の単元などとの関わりを説明している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の単元が既習事項の延長線上にあることを生徒に認識させるため、復習も兼ねて、必ず前回授業の要点を復習し、本日の授業との関わりを説明している。 ・ 本日の単元を理解することが、他の単元にどのような影響を与えるかを事前に説明することで、単元への興味を喚起している。
2. 授業内容に興味を持たせる工夫(導入時) <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容について、塾生に興味を持たせる工夫をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ はじめに、生徒にとって身近な事象や出来事などを拾い上げて、その単元との関わりを示して、興味を持ってもらうように工夫している。 ・ 「この単元は〇〇校の入試でよく出るよ」など、その単元について、目標となる入試での重要性を説明している。

■行動ユニット1-B

【行動基準策定の考え方】

- ・ 授業の初めに、授業目的や要素の関係性を考えさせ、その後の理解を促すための行動

	1. 導入	2. 展開(演習)	3. まとめ
A. 学習を動機づけるための行動	行動ユニット1-A	行動ユニット2-A	行動ユニット3-A
B. 学習内容を理解させるための行動	行動ユニット1-B	行動ユニット2-B	行動ユニット3-B
C. 授業に集中(参加)させるための行動	行動ユニット1-C	行動ユニット2-C	行動ユニット3-C
総合、基本的マナー、授業科目の知識(共通)			

求められる行動基準	(参考) ベテラン講師などの行動事例
1. 導入時の説明・発問のタイミング <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の説明や発問のタイミングが適切であり、円滑な授業の展開を導いている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の側から答えや例を出すだけでなく、なるべく生徒に発言してもらっている。導入時に特にそれを意識することによって、生徒の参加意識を促している。 ・ 最初の発問は特に、生徒の理解度を確認し、授業の難易度のレベルを調整するようにしている。
2. 導入時の説明・発問の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初の説明や発問は、適切な題材を用いて、塾生にわかりやすく問いかけている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明をする際に身近な事例を子どもから拾い上げて説明している。例えば、数学で立体を説明するときは、予め画用紙などで小道具を作成しておくことにしている。 ・ 特に最初の説明や発問は原則を重んじたシンプルなものにしている。例外をごちゃごちゃと説明すると、生徒が混乱する。 ・ 「これからやることは、決して難しくない」ということを感じてもらうために、単元の内容を「要はこういうことなんだよ」とかみ砕いて説明し、リラックスさせて授業を始めている。

■行動ユニット1-C

【行動基準策定の考え方】

- ・ 授業の初めにけじめをつけ、集団における講師のリーダーシップを発揮し、円滑な授業運営をするための行動

	1. 導入	2. 展開(演習)	3. まとめ
A. 学習を動機づけるための行動	行動ユニット1-A	行動ユニット2-A	行動ユニット3-A
B. 学習内容を理解させるための行動	行動ユニット1-B	行動ユニット2-B	行動ユニット3-B
C. 授業に集中(参加)させるための行動	行動ユニット1-C	行動ユニット2-C	行動ユニット3-C
総合、基本的マナー、授業科目の知識(共通)			

求められる行動基準	(参考) ベテラン講師などの行動事例
1. 導入時の話し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 惹きつけられるような話のリズムであり、強弱・緩急がある ・ 声の大きさが適切で、明るく、聞き取りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気がない小さな声が最も良くないが、大きすぎる声も状況によっては問題である。最低限、一番後ろの生徒にも聞こえるような声の大きさは必要である。聞き取りやすく話しているかどうかは、生徒の表情をみて確認する努力をしている。 ・ 「えー、あー、うー」といった余計な言葉を使わない。言葉を咬まないようにしている。 ・ 授業前に「滑舌」をして、生徒に聞きやすい発音を心がけている。
2. 導入時の態度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 立居やふるまいが適切である ・ 表情が豊かであり、目線が教室全体に行き渡っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 立ち位置を正面中央にして、半歩前に出るつもりで話し始める。 ・ 導入時に、すぐ黒板に向かうのではなく、生徒を引き込むような元気な姿勢を見せている。 ・ 使用するテキストを高く掲げて、何を準備すべきか生徒に分かるようにしている。 ・ いつまでもおしゃべりしたりして集中しない生徒には、はじめに目線で注意し、それでもだめなら言葉で注意するようにしている。
3. 導入時の授業運営 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の塾生の行動に流されず、教室全体を把握した授業を開始している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「起立・礼・着席」の号令を行うことでメリハリをつけている。 ・ 授業で不必要な鞆や道具は、机の下に置かせてから授業を始めている。 ・ 遅れてきた生徒がいる場合は、指示(テキストの該当箇所など)をした上で、すぐに座らせている。 ・ 授業開始前の生徒の表情・会話に気を配っておき、学校での話題などからはじめることで授業をスムーズにスタートさせている。 ・ 「では、ノートを開いて」「ではプリントを表にして」というように、号令で生徒の行動が一斉に揃うようにしている。 ・ 出席の状況をチェックして、欠席者のフォローに配慮している。

II. 展開

■行動ユニットII-A

【行動基準策定の考え方】

- ・ 授業内容が楽しく、役に立つこと実感させることによって、積極的な授業参加を促すための行動

	1. 導入	2. 展開(演習)	3. まとめ
A. 学習を動機づけるための行動	行動ユニット1-A	行動ユニット2-A	行動ユニット3-A
B. 学習内容を理解させるための行動	行動ユニット1-B	行動ユニット2-B	行動ユニット3-B
C. 授業に集中(参加)させるための行動	行動ユニット1-C	行動ユニット2-C	行動ユニット3-C
総合、基本的マナー、授業科目の知識(共通)			

求められる行動基準	(参考) ベテラン講師などの行動事例
1. 授業内容に興味を持たせる工夫(展開時) <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて、授業内容について、塾生に興味を持たせる工夫をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な話題を結びつけることでストーリー仕立ての説明をし、生徒の理解を促し、記憶に残るように話している。 ・ 解かせ終えた問題について、「実は〇〇校の入試に出た問題だ」などと、敢えて後で説明を加えることによって、インパクトを与えるとともに、入試問題が解けたという生徒の自信にも繋げる工夫をしている。
2. 授業中の激励など <ul style="list-style-type: none"> ・ 塾生の反応をみて、励ましの言葉ややる気を喚起させる言葉をかけている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒がわかった瞬間、問題を解いた瞬間に、個別に激励することを心掛けている。生徒に自信を持たせ、やる気を喚起させるようにしている。 ・ 生徒が疲れているようなときは、1問ずつ「問題演習→解説」を繰り返すことでリズムをつけるような工夫をしている。集中力が切れやすい生徒には積極的に質問・激励をしている。 ・ 激励の言葉ややる気を喚起させる言葉は、生徒一律ではいけないし、繰り返しでもいけない。状況に応じて言葉を発し、生徒のやる気を喚起したか確認することが必要である。

■行動ユニットII-B

【行動基準策定の考え方】

- ・ わかりやすく教え、考えさせることによって、到達（成長）を実感し、一層の理解を促すための行動

	1. 導入	2. 展開(演習)	3. まとめ
A. 学習を動機づけるための行動	行動ユニット1-A	行動ユニット2-A	行動ユニット3-A
B. 学習内容を理解させるための行動	行動ユニット1-B	行動ユニット2-B	行動ユニット3-B
C. 授業に集中(参加)させるための行動	行動ユニット1-C	行動ユニット2-C	行動ユニット3-C
総合、基本的マナー、授業科目の知識(共通)			

求められる行動基準	(参考) ベテラン講師などの行動事例
1. 適切な説明・発問・例示 <ul style="list-style-type: none"> ・ 例示や発問の回数・タイミングが適切である ・ 塾生の理解の定着を図るために、工夫された説明・発問・例示がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 暗記事項では声に出して覚えさせるなど、生徒に飽きさせず、理解を促す工夫をしている。また、暗記法を教えるようにもしている。例えば親鸞の「鸞」は何度書いても覚え難いが「糸糸言う鳥」と教えてあげることによって覚えられようになる。 ・ 生徒の集中力がきれてきているときには、問題を1問ずつ解かせるなど、発問を工夫することでリズム感を持たせている ・ 生徒が自分の力で考えられるような例題を出したり、前の例題で用いた解法を次の例題でも活用できることを示すなど、例題の組み立て方を工夫している。 ・ 時間を区切って問題を解かせることで、生徒に緊張感を持たせている
2. 塾生の理解確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 塾生の理解度をチェックするための発問をしている ・ 塾生の表情や応答などから理解度を解釈し、確認している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択問題であっても、単に答えあわせをするだけでなく、不正解の選択肢がなぜ間違っているのかを生徒に答えさせることで、理解を確認している。 ・ 問題の内容、難易度によって、チェックすべき生徒を選んでいる。難しすぎるようであれば再度説明をしている。 ・ 生徒が黒板を写している間に、教室を回ってノートに誤字脱字がないかをチェックしている。
3. 説明、発問・確認・対応の流れ <ul style="list-style-type: none"> ・ 塾生の理解を促すための発問・確認・対応の流れが適切である ・ 特に授業の要点などが明確にわかるように説明している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的には、その授業の中ですべてのコンテンツを完結させる。自宅で復習はしなくともよいレベルまで、授業のなかで理解させることを目指している。 ・ 発問から確認、対応の流れは、問題の難易度に応じて変化させている。説明・発問→確認→対応の流れは、一つの授業で何度も繰り返されるが、一連の流れが明確になるように、切替を重視している。

4. 塾生の応答に対する対応

- 塾生の応答に対するリアクションが適切である
- 塾生に確認したことを活かした説明ができています

- レベルの高い生徒には発展的な問題にも取り組ませるなど、生徒のレベルの違いに配慮している。解答できなさそうな生徒には、ヒントなどを出して自分で答えさせるような工夫も必要である。
- 正答できなかった生徒に対するフォローを忘れないようにしている。間違っただけの解答をした生徒をそのままにしておくと、その生徒はその後出席しづらくなったり、その後答えなくなったりする。
- 生徒が理解しているかどうかを確認し、理解していないと感じた場合は、説明方法を変えたりするなどして、理解の定着を促すようにしている。

■行動ユニットII-C

【行動基準策定の考え方】

- ・ 授業中、時間と空間をコントロールし、円滑な授業運営を維持するための行動

	1. 導入	2. 展開(演習)	3. まとめ
A. 学習を動機づけるための行動	行動ユニット1-A	行動ユニット2-A	行動ユニット3-A
B. 学習内容を理解させるための行動	行動ユニット1-B	行動ユニット2-B	行動ユニット3-B
C. 授業に集中(参加)させるための行動	行動ユニット1-C	行動ユニット2-C	行動ユニット3-C
総合、基本的マナー、授業科目の知識(共通)			

求められる行動基準	(参考) ベテラン講師などの行動事例
1. 展開時の話し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 聞いていて苦にならない話のリズムである ・ 声の大きさが適切で、間、明るさがあって、聞き取りやすい ・ 要点の説明などが明確にわかるよう、話の強弱やスピードをコントロールしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 元気がない小さな声が良くない。最低限、一番後ろの生徒にも聞こえるような声の大きさは必要である。聞こえているかどうかは、生徒の表情をみて確認している。 ・ ゆっくりと話した直後に急展開したり、敢えて急に小さな声で興味を惹きつけたりしている。生徒にはずっと緊張させても良くないし、ずっとリラックスさせても良くない。 ・ 集中させたい箇所や重要な箇所では、声の強弱やトーンを変えたり、間を取ったりするなど、注意を向けさせる工夫をする ・ 生徒たちが理解しているかをきちんと把握しながら、話の間やテンポを変えていく。生徒が真剣に聞き入っている状況が明らかなのであれば早口の方が集中してきくことにつながる。逆に理解度が低そうだと思うのであれば、同じ内容をゆっくり話したりする工夫をしている。
2. 展開時の態度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 立居やふるまいが適切である ・ 表情が豊かであり、視線が教室全体に行き渡っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人(全員)と目が合うように意識しており、どうしても目が合わない生徒に話しかけたりしている。 ・ 生徒の集中力が切れるのを避けるため、時には教室内を歩き回りながら説明している。 ・ 生徒と正対していることが基本であるが、時には注意を引くために敢えて生徒の後ろで説明をしたりしている。

<p>3. 板書による説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字が塾生からよく見えて、目的に応じた板書をしている 長い時間、塾生に背を向けた板書をしていない 板書が授業の流れを妨げていない 	<ul style="list-style-type: none"> 右端の生徒、左端の生徒、後方の生徒、全ての生徒が黒板の内容を読めるのかどうかを、書いている最中も、書き終えたときも意識している。 ノートをとってもらうためにきれいにまとめる板書と、単元の概要を理解してもらうために大まかに書く板書など、目的に応じた板書の使い方をしている。また、「ここはノートに取ること」「ノートには取らないで、こっちをみること」と明確な指示を出している。 ノートにとってもらうためにまとめる板書は、そのまま写せばノートになるような板書にしている。 生徒に要点を理解してもらうために、重要な箇所で色を変えたり、大きく書くなどの工夫をしている。 板書をしている間にも、生徒のほうに注意を向けるよう配慮している。例えば、生徒の話し声が出た場合はふりかえったり、板書しながらも声を出すなど、状況と目的に応じた対応をとっている。
<p>4. 講師の意欲・情熱</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師の意欲や情熱・使命感が伝わってくる 	<ul style="list-style-type: none"> 多少演技染みたるまいであっても、説明をするときには、身振り手振りを加え、メリハリをつけることで生徒に情熱を伝えるような努力をしている。 講師が一人で演じ、生徒がポカンと眺めている授業が最も良くない。意欲や情熱は表現する努力をしても、常にそれが生徒に伝わっているかどうか、生徒の目が常に自分を集中して見ているかどうかを確認している。 講師は常に生徒に見られていることを意識し、規範を示すことが必要である。講師の言うことはぶれないという意識を生徒に持たせて、信頼を得るよう努力している。
<p>5. 展開時の授業運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定の塾生の行動に流されず、教室全体を把握した授業をしている 常に授業に塾生の注意を向けさせる工夫をしている 	<ul style="list-style-type: none"> すべての生徒の挙動を観察する努力し、生徒には「自分は見られている」という感覚を持たせるようにしている。 常に黒板の前に立っているのではなく、教室の中心まで移動して、後ろの生徒に質問するような工夫もしている。横の動きだけだと特定の生徒にとって死角になる場合がある。 発問をする際には、敢えて最も後方の生徒にあてたり、講師が一番後ろに行って、最も前方の生徒にあてたり、隅にいるときは教室の対角線上にいる生徒にあてるようにしている。教室にいる生徒全体を間にしてやりとりがなされるため、皆が聞き取りやすく、参加意識を促せる。 やる気のない生徒や、授業運営に支障をきたすようなふるまいをする生徒には、叱りつけることも時には必要だが、生徒のパーソナリティについて叱ってはいけな。生徒自身を叱るのではなくて、生徒の行動を叱り、しかもそれは公平でなくてはならない。

III. まとめ

■行動ユニットIII-A

【行動基準策定の考え方】

- ・ 授業後も、塾生が興味を失わずに、継続的に学習をさせるための行動

	1. 導入	2. 展開(演習)	3. まとめ
A. 学習を動機づけるための行動	行動ユニット1-A	行動ユニット2-A	行動ユニット3-A
B. 学習内容を理解させるための行動	行動ユニット1-B	行動ユニット2-B	行動ユニット3-B
C. 授業に集中(参加)させるための行動	行動ユニット1-C	行動ユニット2-C	行動ユニット3-C
総合、基本的マナー、授業科目の知識(共通)			

求められる行動基準	(参考) ベテラン講師などの行動事例
1. 授業の位置づけの再確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の授業や当該単元では何をしたのかを説明している ・ 前後の授業や他の単元との関わりを説明している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の単元が既習事項の延長線上にあることを生徒に再認識させるため、復習も兼ねて前回授業との関わりを説明している。 ・ 授業がどうしても次回に続きそうな場合は、面白くなりそうなところであえて終わりにし、次回への繋がりを重視し、興味を持続させるような工夫をするときもある。
2. 授業内容に興味を持たせる工夫(まとめ時) <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の授業内容について、塾生の復習や次の予習を促す工夫をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ これだけは覚えて帰ってほしい、という本日のポイントを示し、なぜそれがポイントなのかも併せて説明している。例えば、「今後の理解の上で大事だ」「テストに出る可能性が高い」等、説明の方法は様々ある。 ・ 家に帰ってからも続けて学習しようとする意欲を高めるために、授業でやった内容と宿題をリンクさせるようにしている。

■行動ユニットⅢ－B

【行動基準策定の考え方】

- ・ 授業内容の理解、記憶の定着を促すための行動

	1. 導入	2. 展開(演習)	3. まとめ
A. 学習を動機づけるための行動	行動ユニット1-A	行動ユニット2-A	行動ユニット3-A
B. 学習内容を理解させるための行動	行動ユニット1-B	行動ユニット2-B	行動ユニット3-B
C. 授業に集中(参加)させるための行動	行動ユニット1-C	行動ユニット2-C	行動ユニット3-C
総合、基本的マナー、授業科目の知識(共通)			

求められる行動基準	(参考) ベテラン講師などの行動事例
1. 塾生の理解確認 <ul style="list-style-type: none"> ・ 塾生の理解度をなんらかの方法で最終確認している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 確認テストなどをして、生徒の理解度をチェックするようにしている。 ・ 宿題を忘れずにメモしているか確認している。 ・ 重要事項は、声に出させて確認させている。
2. 要点の明示 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の要点などが明確にわかるように再度説明している 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該単元における必修事項は、授業の最後に必ず確認している。

■行動ユニットⅢ－C

【行動基準策定の考え方】

- ・ 授業の終わりにけじめをつけ、塾生の授業参加に感謝するための行動

	1. 導入	2. 展開(演習)	3. まとめ
A. 学習を動機づけるための行動	行動ユニット1-A	行動ユニット2-A	行動ユニット3-A
B. 学習内容を理解させるための行動	行動ユニット1-B	行動ユニット2-B	行動ユニット3-B
C. 授業に集中(参加)させるための行動	行動ユニット1-C	行動ユニット2-C	行動ユニット3-C
総合、基本的マナー、授業科目の知識(共通)			

求められる行動基準	(参考) ベテラン講師などの行動事例
1. まとめ時の話し方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 惹きつけられるような話のリズムであり、強弱・緩急がある ・ 声の大きさが適切で、明るく、聞き取りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の終盤では、授業の中盤と比べて「ゆっくり」「大きめの声で」ポイントを言うことにしている。 ・ 一つのポイント毎に、多少の間を置き、メリハリの効いた話し方を心がけている。
2. まとめ時の態度 <ul style="list-style-type: none"> ・ 立居やふるまいが適切である ・ 表情が豊かであり、目線が教室全体に行き渡っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめ時も、アイコンタクトで生徒一人一人と目が合うように意識しており、どうしても目が合わない生徒には話しかけたりしている。 ・ 自分がそわそわしたり、終わりの支度をしながら話したりしないで、最後まで生徒に集中するよう注意している。 ・ 「きょうは、どうしてもこれを教えたい」という姿勢を見せる工夫をしている。
3. まとめ時の授業運営 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の塾生の行動に流されず、余裕を持って、教室全体を把握したまとめをしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で不必要な鞆や道具は、授業が終わるまで出させないし、帰り支度はしないように注意している。 ・ 次回の変更や注意点は、口頭ではなく、必ず板書にして連絡をしている。 ・ 生徒に「きょうは来て良かった」と思わせる工夫をするよう心掛けている。 ・ 「起立・礼・着席」の号令を行うことでメリハリをつけている。 ・ 生徒全員が退室するまで教室に留まり、質問に回答したり、生徒に声かけをしている。

■授業科目の知識、基本的マナー、総合評価（共通）

【行動基準策定の考え方】

- ・ 授業計画等とも照らし合わせ、全体の構成が適切で効果的であり、基本的なマナーや授業科目の知識も備わっている

	1. 導入	2. 展開(演習)	3. まとめ
A. 学習を動機づけるための行動	行動ユニット1-A	行動ユニット2-A	行動ユニット3-A
B. 学習内容を理解させるための行動	行動ユニット1-B	行動ユニット2-B	行動ユニット3-B
C. 授業に集中(参加)させるための行動	行動ユニット1-C	行動ユニット2-C	行動ユニット3-C
総合、基本的マナー、授業科目の知識(共通)			

求められる行動基準	(参考) ベテラン講師などの行動事例
1. 総合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の計画と全体の構成が適切である ・ 教室全体を掌握し、効果的な学習指導ができている 塾生から学習塾講師として高い信頼を得ている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的に応じた内容を、授業全体を通じてバランスよく扱うようにしている。 ・ 授業の実施計画を予め設定し、時間内で全てを完結するように心掛けているが、生徒の理解度や反応をみて、臨機応変に対応することも併せて重視している。 ・ 授業のテクニックには様々なものがあるが、短期間に同じテクニックを繰り返し使わないように気をつけている。 ・ 全ての生徒に目を合わせることで、生徒の集中力を取り戻すことも可能である。それによって生徒も「先生が自分を意識・認識している」と感じる事が出来るため、信頼感も増す。
2. 基本的マナー <ul style="list-style-type: none"> ・ 不適切な言葉づかいをしていない ・ 身だしなみ、態度が適切である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マナーや身だしなみについては、保護者に見られたときに信頼を得られるかを基準としている。茶髪やピアス、シーズなどを一律に禁止することはないが、「保護者に見られたときに信頼を得られるか」を基準として設定していれば、茶髪やピアスなどは必ずと無くなると思っている。 ・ 口調を「ですます」に限定しないが、あまり生徒の側に立った口調は慎むようにしている。品性のない態度や下品な話題など、社会人として相応しくない言動はしないようにしている。 ・ 感情的に怒るのは厳禁である。
3. 授業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業科目の知識をしっかりと有しており、授業内容に誤りがない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ テキストの正解は、必ず自分で確認するようにしている。また、別の解き方や考え方がないかを確かめるのを楽しんでいる。 ・ 内容に関連する雑学を集め、授業で生かすようにしている。